

## 2020 年度実施概要

学校名

青森県平川市立竹館小学校

採択活動名

食を端緒にした海洋学習から ESD へ（海を知り海を守るために）

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. いきいき わたしたちのふるさと	全学年	総合的な学習の時間
2. ホタテの解剖実習とウミホタルの発光実験	4・5・6 学年	特別活動
3. 海の生き物を育ててみよう（児童会活動）	4・5・6 学年	特別活動

取り組みの概要

1、学区のクリーン作戦を実施し地球環境の劣化について考察させる契機とした。

春、雪解けに伴い道ばたに散見されるゴミを地区毎に拾う清掃活動を実施した。この活動をきっかけにしてプラスチックゴミ問題について学習し、ゴミを減らすことの重要性について学ぶことができた。

2、毎月 1～3 回、給食の献立から「海で採れるもの」（海産物）を探し出して記録する活動を行った。

私たちが毎日の食事を通して、実に多くの海の恵みを楽しんでいる事実気づかせるとともに、海上交通や運搬をも含めて海洋に依存した生活を送っている実態に目を向けることにつながった。

3、青森市の浅虫海岸を訪問し、磯の生物観察を行うとともに海岸のゴミ拾いを行った。また、東北大学大学院附属浅虫海洋生物学教育研究センターから外部講師を招き、ホタテの解剖実験及びウミホタルの発光実験へ取り組ませた。磯の生物観察及びゴミ拾いは、全校児童で実施した。その後、浅虫水族館へ移動し、魚類や海洋哺乳類の生態について学習した。



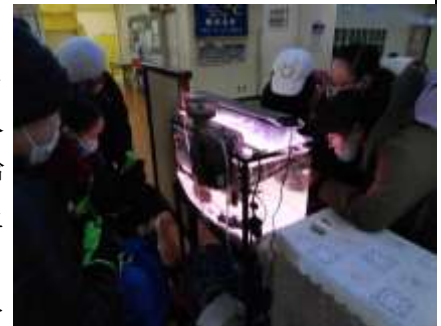
4～6 学年は、浅虫水族館の一室を借りてホタテの

磯の生物観察

ホタテの解剖をする児童

目や心臓、消化器官を観察するとともにウミホタルの発光現象を観察した。海洋生物の生態と特徴について学び、生命の神秘について実感させることができた。

4、校内に海水環境を再現した水槽を設置し、カクレクマノミ及びシユリンプの飼育にチャレンジした。児童会の環境委員会が中心となって人工海水用塩を用いて海水をつくり、水質の管理、水の取り替え、餌の給仕に取り組んだ。当番を決めて観察の記録をつけさせることで子どもたちの海中の生物についての興味・関心を高めることができた。また、水槽を玄関ホールに設置し、保護者や地域の住民等へ海洋生物への理解を



啓蒙する場ともなっている。

カクレクマノミを観察する児童

5、海洋学習の成果をまとめ、授業参観日に発表会を開催した。普段の授業とは異なる視点や論点を与える企図は、児童たちの視野を大きく広げ社会性を向上させるうえで有効であったと考える。また、子どもたちの声を通して保護者や地域住民の方々へ確かな知識や情報を伝播させることが、海洋環境の尊さと保

全の在り方について地域全体へ問い直すきっかけにもなったと自負している。